

五十年誌

未来へ



日本ボーイスカウト静岡県連盟

浜松第 12 団

五十年誌



目次

-
- 2 座談会『発団に想いをよせて』
 - 6 50年の歴史と歴代団委員長
 - 10 浜松第12団10年のあゆみ
 - 14 お祝いの言葉
 - 34 浜松第12団NPO法人化秘話
 - 35 50年のアルバム
 - 46 第49期富士章受賞者喜びの声
 - 48 タイムカプセル
 - 50 協賛・寄付
 - 63 12団新ロゴマークと
50周年記念Tシャツ

座談会

『発団に想いをよせて』

参加者

齋藤 守 相談役 ご夫妻	杉山 雅章 団委員長
鈴木 洋三 相談役	齊藤 晶子 副団委員長
松本 幹比古 相談役	山田 美つ江 副団委員長
金森 啓二 育成会長	仲田 始 副育成会長
金森 武夫 ご夫妻	
坪井 悟	
宮澤 総介	

金森啓二… 本日は12団が50周年を迎えるということで、昔の話を若い人にするとか、けむたがられますが、今日は大いに昔の話をし、何とかこの歴史を残してほしいと思います。

杉山… 本日は、金森育成会長のおかげをもちまして、このような場を設けることができました。来ていただいた大先輩の皆様には、とても感謝しています。

現在の12団は非常に活発に活動しており、どんどん外へむかっています。これからも、もっと、元気な姿、奉仕の精神を強くもっていきけると思います。ひとえに、皆様のおかげと感謝しています。

齊藤晶子… それでは、始めさせていただきますが、今日の趣旨をお願いします。

山田… 今年初めに50周年記念誌実行委員会を立ち上げました。表紙は「未来へ」ということで、スカウトたちへつなぐものとし、発団の事を知りたいということで、歴史を知りたい、「我らのヒストリー」となり、ぜひ、皆様からいろいろなことを教えていただきたいと思えます。

金森… 7団から12団が別れたんですね。宮澤… 父から聞いたんですが…

1団の法林寺(鳴子)ところに内田かいきさん(はんこ屋)がいたんですが、幼稚園関係で紹介され大いに影響されたそうです。三輪悦爾さんと父が和地山あたりにボーイスカウト

服もなくネックカーだけでしたよ!

齊藤佳枝… 最初はひよこ隊でしたね!息子は、ビーバー隊から入れましたよ!

齋藤守… ビーバー隊は60年に発足ですね。初代ビーバー隊長は、仲田さんの奥さんで洋子さんですね。

金森育成会長… 昭和38年に宮澤先生のお宅の松林に小屋あり:「発団式」をそこでやりましたよ。

松本… 途中からですが平成7年の時に団委員長を、三輪さんが体調を崩して松本くんどうしてもやってほしいと言われ受けました。次に小粥さんへ、色々なことがうまくいかず鈴木洋三さんが団委員長になりました。ボーイ隊長やシニア隊もやっていましたね。

仲田… 今の財政の基盤を作ってくださいなのが松本さんです。

松本… 12団が優隊であるには、財政がきちんとしていないとできない。お金がなかったら出来ない。その時、財政委員長をしていましたが、育成会費の運用を組織化し、監査をきちんとして、滞納を無くすことを公認会計士の早川さんに相談しながらやっています。やはり、団運営の財源が枯れてしまうと廃団になるのでは…

齋藤守… 金森武夫育成会長から引き継いで育成会長になりました。会議をどこでやるか…。いろんなところでやりましたね。上島の金森さんのところでもやらせていただいたり

トを作りたいと考えたらいいんです。小児科医カク先生と中嶋圭介さんを誘って幼稚園の園児のお父さんたちも誘って7団を作ったそうです。その後、いろいろあって、12団を作ったのは、僕が小6の時だと思えます。稲垣隊長には非常にお世話になりました。三輪さんともずっと一緒にいた。中嶋さんが団委員長と育成会長をやっていたことが、奥さんも良くやっていたので、お世話になりました。

金森育成会長… 古い名簿がありますが、初代団委員長に中嶋圭介さん、1979年から宮澤先生、次に三輪悦爾さん。小2の時、無理やりボーイスカウトへ入れられ、いやでいやでしかなかった。カブ隊に入ったけれど、制



…。会合の場所もなく、資料をおくところもなく…大変でした。金森さんのところから鈴木洋三さんのところへ移りましたね。

昭和51年4月、長男が参加し健康安全委員会をやりました。3人お世話になりました。ボーイスカウト、スカウティン

グは出会いかな…と、思いますね。12団が立派になったというのは先人の努力と汗があつて、「未来永劫」団になってほしいです。宮澤先生に12団なんだから胸をはれ!「耳は肩の上に」と常に言われていましたよ。

齋藤佳枝…「12姉会」とは

昭和61年にできました。副長から事務を5年くらいやって…。副長は楽しんでいました。事務は古いものがたくさんあって大変でした。マブチさんがきつと片づけてくれたと思います。12団の「姉さんグループ」ですね！やめてしまうと淋しいので親だけで作ったんです。私より上のメンバーで時々会って食事をする程度でした。



坪井… 8年間関わりました。宮澤先生から手伝ってくれと言われました。私は、仕事中心で親としてもあまり出てこれない。だから、子供が「にがて」だったけれど、自分の子供が世話になってるし、日曜日に来てほしい…。と、言われるし。カブ隊の副長を8年間やりました。まじめにやらなきゃいけないと…。やりましたね。タレント性はないけれど、旗を作って子供たちをゾロゾロ引き連れられていた。きついところもあったかな。



川で「ターザン」をやりましたよ！家に帰ってから、あの時、落ちたらどうしたんだろう…。と、考えたり。でも、「冒険」ですね！一番楽しかった時にやらせてもらった。恥も外聞もなく、よくやったと思う。やれと言われまじめに副長をやり、努力して、いろいろやらせてもらったけれど、人生観が随分と変わって、やわらかくなったと思います。物事をきちんと考えるようになったし、自分の成長にもなりました。「デンマザー」がたくさんいて助かりましたよ。浮き輪に薄い木を渡して、スイトンの術だよ！



と、言って渡ったり…。ヘビを流しておどかそうと思っただけ、全然効果がなくて、すぐに捕まえたりして、ガツカリしたこともあった。人生の中で、ボーイスカウトで宮澤先生のおかげで県の表彰を受けました。副長だけの現場のみでした。あるとき、食事に行った所でスカウトだったという人に声をかけられ、驚きましたね。子供たちには楽しんでもらえたかなと、思っています。

宮澤…（僕は）スカウトの経験はありません。カブ隊はあまり好きではなかったけど、ボーイ隊以降はかなり楽しかった。一番行ったキャンプは浜川かな。よく行ったと思います。温泉までリーダーに会いに真っ暗な中歌を歌いながら、川の端を歩いたり…。楽しかったなあ。

シニアが上がったら楽しくて、水を得た魚のようだった。稲垣さんは、ああしろ！こうしろ！と言わなかった。同級生も多くて、どこへ行こうとか、事後報告で…。

ある時、雨が降って、火をおこす紙とかマキとか供給がなくて…。土の中から木の枝を掘って、火をおこしましたよ（一番濡れていないのは土の中なんです）。連れて行った鳥の首をしめて食べたのが今でも印象に残っているなあ。

それから、鳳来の明神山に冬の寒い時に高校生3、4人だけでキャンプしました。リーダーはいなかった。子供ばかりで終わってからは、報告書を出して…。当時は計画書を出して、報告して、今の様に厳しくなかったと思う。普段から

仲間のところへ行き来していて、あそこへキャンプへ行こう、ああしよう、こうしようと話していてそれを実行していた。けがは経験なかったです。僕はこわがりだったからむちゃはしなかった、自然を楽しむということでケガはしなかった。父（宮澤先生）はまったく関与しなかったです。
齊藤晶子… 富山県の高岡との交流があったそうですね。どうでしたか？
宮澤… セトダさんと父と関係があって、夏にこちらに来たのでは…。僕が小学生の時、高岡にスキーに行つて、ボーイスカウトと交流がありました。毎年何回か行き来がありました。
齊藤晶子…（私は）富山出身なんですけど、静岡市の団とも交流があって、行き来があったことを聞きました。
宮澤… 天竜川の船明ダムの方、横山より手前のところでキャンプをよくやっただけですが…。12団ではなく、浜松地区のあるリーダーが、『キャンプとは、「食って、寝て、ひる（簸る）」ことだ』って。ずっと、記憶に残っていて…。その3つのことが出来るのがキャンピングだ！って。
高1の時に世界ジャンボリー（アメリカ）に行き、4年後の日本ジャンボリーが朝霧であり、自衛隊の人と設営をしたのが最後です。スカウトとして楽しませていただきました。
鈴木… 上の息子がカブ隊へ入ってからですが、知人の紹介で12団を紹介されました。一緒に参加しているうちに、次の年に団委員をやり、

座談会

『団に想いをよせて』

B S隊副長を、次はB S隊隊長を長いことやりました。
その後、シニア（ベンチャー）で野営をやるのかと思っただけ、団委員長をやることになりました。
思い出としては、白石のジャンボリー。台風の様な、大雨で大変だった。一つの橋が壊れて、資材が遅れたりしましたね。
私がいた浜松地区のサイトは、山の上だったのでびしょぬれにならなかったけれど、スカウト達はテントの中で横になれない様な状態だった。
次のジャンボリーは新潟でしたが、行く予定だったけれど、他の団のリーダーに譲って行かなかったです。次は、九州（大分）の時、現皇太子にお会いしました。あの時、隊のひとりが「過呼吸」になってしまつて…。救急の人がいましたが、初めて過呼吸を知って、なるほどな、と思いました。
それから、村上さんが12団に入つて2年目の時、鳥を2羽いただいで、春野のキャンプ場でその2羽を食べました。スカウト達は、初め躊躇していましたが食べていましたね。
齊藤晶子… 今、浜松地区で、「命をいただくプロジェクト」を計画しようとしています。…。
鈴木… 生きた鳥だと、保健所の許可をもらわないといけないでしょうね。
鈴木… 前浜地区大会をやった時、出店してもいいと言われて、「焼きそば」を売り、4万円を稼ぎましたね！



50年の歴史と歴代団委員長

(1963年～1989年)

西暦	和暦	世の中のできごと	世界ジャンボリー	日本ジャンボリー	12団委員長
1963	昭和38	核実験禁止条約に調印 最高裁、松川事件再上告を破棄・・・全員無罪が決まる	第11回 ギリシャ(ギリシャ) 8/158/11 参加人数 11,398 参加国数 89 日本代表 138		中嶋 圭介
1964	昭和39	東海道新幹線が営業開始 第18回オリンピック東京大会開会 「黒い雨」(小説) 井伏鱒二			
1965	昭和40	朝永振一郎がノーベル物理学賞 衆議院で日韓基本条約批准(強行採決) 参議院で日韓条約批准(強行採決) 「沈黙」(小説) 遠藤周作			
1966	昭和41	「沈黙」(小説) 遠藤周作 全国で物価メーデー 全日空機羽田沖に墜落 カナタ航空機羽田空港で炎上 BOAC機富士山付近で墜落 第10回国勢調査の確定人口は9827万4961人と発表 全日空Y昭和11型機松山沖で墜落 政界黒い霧事件で衆議院解散 資本取引自由化を実施		第4回 岡山(日本原) 8/558/9 参加人数 30,000 参加国数 12	
1967	昭和42	小笠原諸島23年ぶり復帰 川端康成にノーベル文学賞 東京府中で3億円強奪事件 「青春の門」(小説) 五木寛之 機動隊東大に出動 濃縮ウラン製造実験に成功 東名高速道路全線開通	第12回 アメリカ(アイタホ) 8/158/9 参加人数 12,011 参加国数 105 日本代表 320		
1970	昭和45	日本万国博開催 日航よど号事件 三島由紀夫 剖腹自殺		第5回 静岡(朝霧高原) 8/618/10 参加人数 32,600 参加国数 13	
1971	昭和46	成田新空港反対闘争 沖縄返還協定調印式 ばんだい号墜落事故 全日空機と自衛隊機空中衝突 日中国交正常化 グアム島で横井庄一さん救出 連合赤軍事件 日中国交正常化			
1972	昭和47				
1973	昭和48	金大中事件 江崎玲於奈にノーベル物理学賞 ルパン島で小野田少尉救出 三菱重工ビルで爆破事件 佐藤栄作前首相ノーベル平和賞 三井物産本社で爆破事件 新幹線岡山～博多間開通 沖縄海洋博開催	第14回 日本(朝霧高原) 7/298/7 参加人数 23,758 参加国数 87 日本代表 7,783		
1974	昭和49				
1975	昭和50				
1976	昭和51				
1977	昭和52				
1978	昭和53				
1979	昭和54				
1980	昭和55				
1981	昭和56				
1982	昭和57				
1983	昭和58				
1984	昭和59				
1985	昭和60				
1986	昭和61				
1987	昭和62				
1988	昭和63				
1989	平成元年				

西暦	和暦	世の中のできごと	世界ジャンボリー	日本ジャンボリー	12団委員長
1963	昭和38		第11回 ギリシャ(ギリシャ) 8/158/11 参加人数 11,398 参加国数 89 日本代表 138		中嶋 圭介
1964	昭和39				
1965	昭和40				
1966	昭和41				
1967	昭和42		第12回 アメリカ(アイタホ) 8/158/9 参加人数 12,011 参加国数 105 日本代表 320		
1970	昭和45			第5回 静岡(朝霧高原) 8/618/10 参加人数 32,600 参加国数 13	
1971	昭和46				
1972	昭和47				
1973	昭和48		第14回 日本(朝霧高原) 7/298/7 参加人数 23,758 参加国数 87 日本代表 7,783		
1974	昭和49				
1975	昭和50				
1976	昭和51				
1977	昭和52				
1978	昭和53				
1979	昭和54				
1980	昭和55				
1981	昭和56				
1982	昭和57				
1983	昭和58				
1984	昭和59				
1985	昭和60				
1986	昭和61				
1987	昭和62				
1988	昭和63				
1989	平成元年				



50年の歴史と歴代団委員長

(1990年～2013年)

西暦	和暦	世の中のできごと	世界ジャンボリー	日本ジャンボリー	歴代団委員長
1990	平成2	日本初の宇宙飛行士（B昭和記者）帰還	第17回 大韓民国（曹世山国立公園）8/158/16 参加人数 19,083 参加国数 135 日本代表 2,675	第10回 新潟（妙高高原）8/358/7 参加人数 30,972 参加国数 32	三輪 悦南
1991	平成3	雲仙で大規模火砕流			
1992	平成4	天皇皇后両陛下初めて中国訪問			
1993	平成5	天皇皇后両陛下が初めて沖縄訪問			
1994	平成6	皇太子と雅子さん結婚の儀 東京サミット 細川連立内閣発足 米凶作で輸入			
1995	平成7	名古屋国際空港で中華航空事故死者246 松本サリン事件発生 関空開港	第11回 大分（久住高原）8/358/7 参加人数 30,914 参加国数 22		松本 幹比古
1996	平成8	阪神淡路大震災（M7.3の大地震） 地下鉄サリン事件			
1997	平成9	福岡空港でインドネシア機炎上 ヘルー日本大使公邸襲撃事件 消費税5%実施			
1998	平成10	明石海峡大橋開通 しまなみ海道開通	第12回 秋田（森吉山麓高原）8/358/7 参加人数 26,740 参加国数 34		鈴木 洋二
1999	平成11	国旗国歌法成立 三宅島噴火			
2000	平成12	アメリカで同時多発テロ発生 三宅島噴火			
2001	平成13	家電リサイクル法開始 愛子様誕生	第13回 大阪（舞洲スポーツアイランド）8/358/7 参加人数 20,588 参加国数 37		仲田 始
2002	平成14	拉致被害者5人帰国 住民基本台帳ネットワークシステムスタート			
2003	平成15	九州新幹線部分開業 宮田地下鉄から東京メトロへ			
2004	平成16	秋篠宮紀子妃、悠仁親王出生			
2005	平成17				
2006	平成18				
2007	平成19	郵政民営化（J-POP）P24、700局 発足			
2008	平成20	東京地下鉄副都心線開業 原油高騰でガソリン価格180円台/リッターへ 東海北陸自動車道全線開通 洞爺湖サミット	第14回 石川（珠洲）8/358/7 参加人数 20,652 参加国数 38		杉山 雅章
2009	平成21	原油価格下落でガソリン価格100円台へ 不況による製造業派遣切りで年越し派遣村 不況により企業の採用内定取り消し増加 メキシコ発新型インフルエンザ世界へ 衆院議員選挙 自民党政権から民主党政権へ			
2010	平成22	自民党から複数の離党者 宮崎県で口蹄疫被害発生 感星探査機はやぶさ7年ぶり帰還 参院議員選挙（民主克過半数割れ） 100歳以上高齢者所在不明続出 羽田新国際線ターミナル開業 ノーベル化学賞に根岸英一氏・鈴木章氏	第15回 静岡（朝霧高原）8/258/8 参加人数 19,382 参加国数 41		
2011	平成23	東北新幹線青森まで全線開通 （アフリカの春）チュニジア1月、エジプト1月、リビアで10月いずれも長期政権崩壊 九州新幹線全線開通 東日本大震災（東北地方太平洋沖 M9.0 深さ約24km）津波等で数万人が犠牲 なでしこジャパンワールドカップ優勝 新潟・福島に記録的豪雨 テレビアナログ放送終了（若手宮城福島は延期） 民主党から複数の離党者 東京スカイツリー（634m）オープン 電波塔として世界一の高さ 消費税増税採決を巡り民主党より多数の離党者 ロンドンオリンピック 消費税増税法成立（10%へ） 尖閣諸島国有化 総選挙で自民党圧勝 二次安倍内閣発足	第22回 スウェーデン（リンカンビ）7/2758/7 参加人数 40,061 参加国数 146 日本代表 966		
2012	平成24	大阪市立桜宮高等学校の体罰自殺事件発覚 元横綱大鵬に国民栄誉賞の授与決定 インターネット選挙運動解禁 長嶋茂雄、松井秀喜に国民栄誉賞の授与決定 富士山が世界文化遺産に登録 第23回参議員選挙 自民党圧勝	第16回 山口（世田原）7/3158/8 参加人数 15,000 参加国数 53		



2013				2012				2011				2010				2009				2008																																									
08/10/12 (土)	07/06 (土)	06/30 (日)	06/01 (土)	04/29 (月)	04/21 (日)	03/03 (日)	01/01 (火)	12/23 (日)	12/12 (日)	10/28 (日)	10/21 (日)	10/07 (日)	10/02 (日)	07/01 (日)	06/24 (日)	06/02 (土)	04/22 (日)	04/01 (日)	01/01 (日)	12/23 (金)	12/04 (日)	10/30 (日)	10/16 (日)	10/02 (日)	07/23 (土)	05/28 (日)	04/10 (日)	04/03 (日)	03/20 (日)	01/01 (土)	12/23 (木)	12/04 (土)	10/31 (日)	10/03 (日)	07/03 (土)	06/27 (日)	06/06 (日)	06/05 (土)	04/18 (日)	04/04 (日)	01/01 (金)	12/23 (水)	11/29 (日)	11/01 (日)	10/18 (日)	10/04 (金)	07/05 (日)	04/05 (日)	03/22 (日)	01/01 (月)	12/28 (日)	11/23 (日)	11/02 (日)	10/05 (日)							
回キャンプ	2013ジャンボリーナイト活動状況	夏季ボイスカウト体験会活動状況	大人の好奇心！「大人のキャンプ」	緑の募金	春の体験会	リーダー研修会	運拝式	ユニセフ・歳末助け合い募金	回親睦ホーリング体験会	49周年記念式典	秋の体験会	第49期入隊上進式	第49期入隊上進式	ジャンボリーナイト	夏の体験会	回キャンプ	春の体験会	緑の募金	運拝式	ユニセフ・歳末助け合い募金	回親睦ホーリング大会	48周年記念式典・緑の募金	秋の体験会	第48期入隊上進式	第48期入隊上進式	鈴鹿1回交流会	ジャンボリーナイト	6年連続日連より組織拡充優秀団Sランクとして表彰される	春の体験会	東日本大震災義援金活動	春の体験会	選拝式	ユニセフ・歳末助け合い募金活動	12回ホーリング大会	47周年記念式典・秋の体験会	入隊上進式	第47期入隊上進式	ジャンボリーナイト	夏の体験会	カウントダウンジャンボリー15 記念パレード	回キャンプ	春の体験会	緑の募金	選拝式	ユニセフ・歳末助け合い募金活動	46周年記念式典	回親睦ホーリング大会（軽食懇親会付き）	ボイスカウト秋の体験会	入隊上進式	第46期入隊上進式	鈴鹿スカウト交歓会	4年連続日連より組織拡充優秀団Sランクとして表彰される	ジャンボリーナイト・ボイスカウト夏の体験会	緑の募金	春の体験会	選拝式	ユニセフ・歳末助け合い募金	回親睦ホーリング大会・懇親会	45周年記念式典	入隊上進式	第45期入隊上進式
浩庵（本栖湖）	青少年の家	青少年の家	金指農村公園	浜松駅周辺	青少年の家	青少年の家	浜北グリーンアリーナ	浜松駅周辺	毎日ホール	高台公民館	佐鳴湖公園	青少年の家	住吉青少年の家	青少年の家	青少年の家	鳳来町かどや小学校跡地	青少年の家	浜松動物園・浜松市フラワーパーク	浜北グリーンアリーナ	浜松駅周辺	毎日ホール	北部公民館	青少年の家	住吉青少年の家	青少年の家・秋葉山	青少年の家	青少年の家	浜北森林公園・パドビア	浜松動物園・フラワーパーク	伊佐地緑地（浜松市伊佐地町）	浜北グリーンアリーナ	浜松毎日ホール	農村環境改善センター	住吉青少年の家	青少年の家	農村環境改善センター	青少年の家	青少年の家	浜松動物園・浜松市フラワーパーク	浜北グリーンアリーナ	浜松駅周辺	毎日ホール	農村環境改善センター	佐鳴湖公園	農村環境改善センター	農村環境改善センター（西区伊左地町）	浜松動物園・浜松市フラワーパーク	和地山公園・和地山集会所	浜北グリーンアリーナ	JR浜松駅周辺	毎日ホール	農村環境改善センター	北部公民館								



50周年を迎えて

育成会長

金森 啓二

浜松第12団は本年11月3日に50周年を迎えることになりました。初代中嶋団委員長、加藤育成会長、宮澤隊長、三輪隊長、稲垣隊長から始まり12団の半世紀に渡る歴史を築いてこられたリーダー、団委員、ご父兄、スカウトの諸先輩の皆様にご厚くお礼申し上げます。

1963年11月3日、文化の日に住吉幼稚園グラウンドにてカブスカウト31名、ボーイスカウト18名の計49名で12団は発団いたしました。現在、発団当時のカブ・ボーイスカウトは還暦を迎える年代となりました。

現在の12団は登録者数200名を数える、日本で2番目に大きな団となっております。歴代の団委員長、育成会長、団委員、リーダー、ご父兄、スカウトの皆様から次々と次の世代にバトンが渡され、日本において最も活発に活動している優秀な団として発展してまいりました。

平成20年7月には特定非営利活動法人として認可をいただきました。ボランティア活動などの社会貢献活動をおこなう営利を目的としない団体として、法人格で銀行口座を浜松12団名で開設できるようになりました。

本年7月30日には第16回日本ジャンボリー、2015年7月28日には第23回世界ジャンボリーが山口市きらら浜で開催されます。富士山のふもと朝霧高原で開かれた第13回世界ジャンボリー以来44年ぶりに日本で世界ジャンボリーが開催されます。多くの12団のスカウトがジャンボリー参加を目指して訓練を行っております。

ボーイスカウトになる時に、隊長、スカウトの仲間、ご父兄の前で立てた「ちかい」の言葉、8つの「おきて」は若い心に刻まれ、大人になっても何時までも記憶に残るものです。世界3000万人のボーイスカウトの一員として、浜松第12団のスカウトが次の歴史を作り、スカウトの「ちかい」「おきて」を人生の糧として、世界に羽ばたいてくれると思います。今後も皆様のご支援をよろしく願っています。

50年のつながり

第50期団委員長

山田 美つ江

昭和38年11月、カブスカウト隊31名、ボーイスカウト隊18名、計49名にて12団が誕生しました。今では、皆様のご協力により全国でも有数の団へと発展を遂げ、本年11月をもちまして50周年を迎えることとなりました。今まで当団の歴史を築いてこられた先輩の皆様並びに現在支援を頂いている育成会の皆様へ深く感謝申し上げます。

現在の登録スカウトは、1000人を超えています。スカウト活動は一貫教育で年長児からローパー年代までそれぞれが目的を持って活動をしています。その様な環境を諸先輩たちの意志のつながりによって今に至っていることは非常に素晴らしい事です。

今年は、3人のスカウトが富士章を取得しました。一挙に得られるものではなく、本人の努力はもちろん、ご両親、同期スカウト達、リーダーの支援があつてこそ取得できたことです。「継続は宝なり!!」沢山の積重ねによって得たものです。

これから、何を伝えれば良いか・・・それは、宮澤先生が常に「体が元気でないと何もできない!」と、話してくださいました。自然の中での遊びを通して、まぶしい太陽の光、冬の非常に冷たい風を感じ、きれいな花を見て感動する心、時には怖いことも・・・野外活動で五感を鍛えること、異年齢の活動を通して身に付くものと思います。地元だけに留まらず、ジャンボリーなどの参加を機に世界へ向かってほしいと思います。「たくましく育ってほしい!!」それは、自分で考え、行動できる大人になること。それがスカウト活動のねらいです。「ちかい」と「おきて」は入団時から自身自身に年代に応じて糧となる言葉ですが、大人になっても他の地に移っても必要なことだと思います。

50年からの更なるスタートとなって諸先輩が築いたものを未来へ繋いでいきたいと思います。

ますますの発展をしますように。

弥栄

12団50周年にあたって 無言の教育を实践するフィールド

相談役

宮澤 廣士

あれから50年が過ぎたとは夢のようです。当時の少年たちが60歳を過ぎたことを思うと感無量です。

御殿場の日本ジャンボリーや英国のジャンボレットなど楽しいキャンプのことが思い出に残っています。その一方、12団においてボーイスカウトという少年教育のシステムを作ったことが最大の良き思い出です。スカウト教育はどう行えばいいかをいろいろ考えたものです。後輩のリーダーたちはそれを参考にして指導し、さらにその後輩たちへ伝えたと思います。こうしてできたシステムは浜松12団の宝です。このシステムはスカウト教育に一定の効果をあげることができ、個人的にも12団の発展に微力ながら貢献できたと考えています。

ボーイスカウトとは無言の教育を实践するフィールドだと思います。教育システムはすでに構築されているので、今後も12団は発展すると信じていますし、そうなるってほしいものと願っています。

(入院中のため聞き取りにより宮澤総介氏が代筆しました)



祝 創設50周年

相談役

齋藤 守

浜松第12団が、創立50周年を向かえたことに、心からの「弥栄」を送りたいと思います。半世紀という年月を考へますと、非常にたくさんの人々が、この団にかかわり、参画し、その足跡を残してきましたが、現在の団の隆盛があるのは、先人達の「熱意」「努力」が実を結んできたものと思います。

現在、団を支えている育成会も、指導者の方々にも、温故知新を忘れずよき伝統を継承しながら、良いものを取り入れるチャンレジ精神を発揮して、60年、70年をめざしていただきたいと思っています。

スカウティングは、明日を担う子供達の健全育成に最も適した活動であると同時に、成人にも自分をみがく良い場だと思っています。

家族の絆もスカウティング活動からその第一歩が始まり、固いものになると信じます。

50周年 弥栄

一般社団法人
日本ボーイスカウト静岡県連盟 理事長

土山 和雅

昭和39年東京オリンピック開催。ボーイスカウト日本連盟久留島総長（世界青少年キャンプ組織委員会副会長）が日本のスカウティングを各界に知らしめた頃、産声を上げそれから50年。当時の社会情勢と現今ではスカウティングも激変し低迷期であるにもかかわらず県下トップの団員数を維持し、日本連盟からSランク表彰を受けたことは、育成会長はじめ現団委員、指導者のもとより、支えてこられた先達、諸兄弟のご苦勞の賜ものと賞賛されます。

折しも第16回日本ジャンボリー開催の年。参加スカウトは、テーマ「和」、コンセプト「Energy (出会)」、Innovation (革新)、Harmony (調和)、Communication (相互信頼)」を軸に感動の9日間を体験することは、B・P最後のメッセージ『本当の幸せは他の人々が幸せになるよう全力をつくすことである。その為には「ちかいとおきて」の実践を「そなえよつねに」の心構えを確立することが大切である。』の精神の高揚を図れる最大のチャンスとも云えます。更に「地域社会に根ざすスカウト運動の推進」(県連スローガン)を実行することが肝要であります。

このことを見事に実践している貴団の更なる充実とパワーの継続を願い、お祝いの弥栄と致します。



創設50周年を祝して

静岡県連盟 浜松地区地区委員長・ベンチャー隊副長

西村 清矢

創設50周年まことにめでたうございます。

日本ボーイスカウト静岡県連盟浜松地区浜松第12団は半世紀50年の長き道のりを、歴代の団委員長をはじめ関係者の皆様が一丸となって団運営とスカウトの素質向上にご尽力され、大きな発展を遂げられています。団の規模におきましては、浜松第12団は日本連盟から8年連続Sランクとして表彰されています。スカウト100名以上、指導者40名以上を3年間維持して表彰されるSランクは平成24年度で、静岡県に2コ団しかありません。50年に亘るボーイスカウト活動により、スカウトだった少年・少女たちが、立派な社会人として活躍され、また指導者として奉仕して頂いています。



「桃栗3年柿8年」と言いますが、ボーイスカウトはビーバーからローバーまでの一貫教育により「自ら考え、行動し、その結果に責任を負う智・徳・体を兼ね備えた良き社会人を育てる」活動であり、一朝一夕に成果が出るものではありません。その長きにわたる教育を支える浜松第12団がますます充実した発展を続けることを祈念いたしております。また団を支える浜松地区の発展と後進の指導にこれからもお力をお貸しくださいようお願いいたします。

団創設50周年のお祝い

ボーイスカウト浜松地区コミッシヨナー

渋谷 茂光



12団のみなさま、団創設50周年、誠におめでとうございます。

私は子供の頃、追分小学校・北部中学校に通っていましたが縁がなくスカウト活動に巡り合えていませんでした。もしスカウト活動を始めていたとすれば12団さんにお世話になっていたかもしれません。そんな事を考えながら、この文章を書かせていただきました。

みなさんご承知の通りスカウティングは素晴らしい活動ですよね、でも出会いがなければ、この素晴らしい活動に巡り合えません。みなさんは、スカウティングに巡り合え、そして全国的にもトップ

クラスの活動をされている浜松12団に出会えて非常にラッキーですよ！

「僕は、私は浜松12団のスカウトです。」胸を張って誇らしげに宣言できる素晴らしい団だと思えます。先輩から受け継いだ、この素晴らしい団を、みなさんもっと、もっと良い団にしていこう！と思ひ活動し続けられ更に素晴らしい団であり続ける事が出来ると思えます。浜松地区の発展のため、ボーイスカウト発展のため、こちらからトップランナーであり続ける事を祈念しお祝いの言葉とさせていただきます。

弥栄！弥栄！弥栄！

創団50周年おめでとう

浜松第7回団委員長

杉山 きよ子



12団の皆様50周年おめでとうございます。半世紀の長きにわたりボーイスカウト運動の原点「ちかいとおきて」のもと青少年の健全育成に情熱を注ぎ、また未来を見据えて指導者の育成を着実に続けてこられたことに敬意を表します。

貴団の初代団委員長宮澤廣士先生は、昨年55周年を迎えた私も7団の初代団委員長でもあり、地域的に近いこともあって共に友団として親しく交流させて頂いております。宮澤先生には保護者の勉強会にたびたび来ていただき「褒めて育てればよい子に育つ」「男

子は社会に育てられる」など親の心構えやBS運動について分かりやすくお話を頂いた事を思い出します。当時はスカウトは男子のみでしたがどの団もスカウト数は多く活発でした。少子化の今女子も加えて体験を重視するボーイスカウト運動は以前にも増して青少年の育成に重要な位置を占めます。12団の元気はスカウトにも周辺にも大きな力を振り撒いてこの浜松地区に良い影響を与えてきています。今後の12団の益々の発展に弥栄をおくりまします。

創立50周年を祝して

鈴鹿第1回団委員長

田中 勤



浜松12団が創立50周年を迎えられたことを、心よりお祝い申し上げます。

50年という半世紀にわたる長い団活動を継続することは並大抵のことではありません。団の創立以来携わってこられた方々のご努力に敬意を表したいと思います。同時に育成会長様はじめ団委員長様・団関係者・指導者の皆様方のさらなる努力の賜物と推察いたします。

今年11月に鈴鹿第1回も創立50周年を迎えます。浜松12団の皆様と共に祝うことができますことは本当に幸せだと思います。さて、浜松12団との交流は、宮澤先生と

の「出逢い」がご縁だということはお承知の通りですが、鈴鹿第1回藤田初美団委員長が、静岡県ウツドバツジ研修所に参加し、宮澤先生とお会いしたのち、熱海で開催された東海4県のリーダー集いで宮澤先生と再会し、それをきっかけに交流が始まりました。昭和58年5月には、浜松市において姉妹提携を結びました。この年は両団とも創立20周年を迎えた記念すべき年でした。それからほぼ2年ごとに相互に訪問を行い、現在まで30年間継続しています。このように長く続いているのは、両団とも昭和38年の創立年と11月の発団が同じであり、団の規模もほぼ同じというところなど共通する点が多かったことも一因だと思いますが、なにより浜松12団のスカウト・指導者・団関係者の皆様の心温まるおもてなしと交流がスカウトの心にならなくても良き思い出として残っています。

弥栄



創団50周年に寄せて

浜松市立青少年の家所長

石田 彰

日本ボーイスカウト浜松第12団の皆様、創設50周年を迎えられましたこと、誠におめでとございます。

名実ともに確固たる組織であるとともに、力強いスカウト活動の実践に心から敬意を表するものであります。

昭和38年の創団以来、一貫した高邁かつ崇高な精神に培われた歴史と伝統は、半世紀の間堂々と継承され、地域力として大きく寄与されてきたことはとても意義深いものと受け止めております。

僭越ではありますが、私も浜松市立青少年の家も貴団の創設に遅れること数年、ここ住吉の地に産声を上げてから、

多くのボーイスカウトの活動拠点の一つとしてご利用いただき、同じ志のもとともに歩んでこられたこと、大変喜ばしく感じております。

創団当時はどんな時代だったのかとひも解いてみれば、東京オリピックの開催や東海道新幹線の開通等々高度成長時代の幕開け、黎明期でありました。急速に家庭に普及したテレビ放送では、「鉄腕アトム」や「鉄人28号」など今の時代とも重なる仮想の世界があり、画面から流れる一コマ、一コマに憧れともいえる夢を抱き、より豊かさを求めていた頃でした。

そうしたバーチャルの進化は目を見張るものがある中で、やはりボーイスカウトの大きな目的である、野外活動などの実体験や仲間との触れ合いを通しての心の育みは、時代がどのように変わろうとも大切な不易なものとして日々引き継がれてきていると頼もしく思っております。

私には、ある老舗企業の精神「進化する組織、守り続ける心」ぶれない自信と誇り」という言葉が改めて思い出されます。結びになりますが、日本ボーイスカウト浜松第12団の大いなる発展と皆様方の益々の繁栄を心からご祈念申し上げます。

祝 創設50周年

浜松市立城北小学校長

加藤 泰之



日本ボーイスカウト浜松第12団がスタートしてから50年という年月が経過しました。浜松12団の創設50周年、誠におめでとうございます。

一口に50年と言いますが、ここまで団を大事に育て上げてくださった先人の皆様、そして現関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

青少年教育振興機構の中間報告によると、子どものころに「自然体験」や「友達との遊び」などの「体験」が豊富な人ほど、「もっと深く学んでみたい」といった意欲・関心、「電車やバスに乗ったとき、お年寄りや身体の不自由な人は席をゆずる」といった規範意識、「社会や人のためになる仕事をしたい」と

いった職業意識が高くなる傾向がみられたそうです。子どものころの体験が豊富な大人ほど、やる気や生きがいを持っている人が多いようです。

また、子どものころの体験が豊富な人ほど、「どんなことも、あきらめずにがんばればうまくいく」と回答した人の割合が高くなる傾向がみられました。さらに一カ月に読む本の冊数が多くなる傾向がみられました。

ボーイスカウトの活動は自然体験を中心に様々な活動ができる宝庫であると言えます。小学校段階での貴重な「体験」は、大人になってもよき思い出としてよく覚えており、自分自身の糧となるものであります。

小学生の小さい内からこういった活動に関わる子どもたちが増えれば、さらに私たちの社会が住みよい町になっていくと確信しております。

最初は、9名から始まり、今では団規模も県下一の全国でも有数の団となつている浜松第12団。今後のますますの御発展をお祈り申し上げます。



団創設50周年を迎えて

団創設から50年、私が12団にお世話になってから25年の年月が経過しました。カブ隊、ボーイ隊リーダーとして係わった40才代、副団委員長、団委員長として団の運営に係わった50才代、そして団事務局、育成会として係わってきた60才代、それぞれの年代で感慨は違いますが、一番思い出されるのは特定非営利活動法人の認証を得るプロジェクトに係われたことです。法人化後5年を経過し、ボーイスカウト体験会を始め、通学合宿や子どもゆめ基金助成事業など、地域社会への貢献活動に団内の団・隊指導者

が躊躇なく係わっている姿に法人としての定着度が伺われます。正に、ボーイスカウト運動の新しい展開に12団が挑戦している姿であると言えましよう。最後になりましたが、50周年を迎えるにあたり、これまで当団を営々と築いてこられた先人の皆様、そしてこれからの12団を担って頂く団・隊指導者の皆様に深く感謝の意を表します。有り難うございます。浜松12団50周年弥栄！



副育成会長
仲田 始

50周年の先へ、未来へ

長きにわたるボーイスカウトの精神を見る時「教育はその目的として、人格の形成をもっている」というスペンサー（英の社会学者）の言葉を思い起こし、BSに関わられたすべての方々に、尊敬と感謝の念を禁じえません。

母が「女の子は、女らしくなさいと育て、男の子は、男らしくなさいと言って育ててきたものよ。生まれつき女の子は丈夫で、おませで、強い。あえて、抑制を効かせる意味があつて、そう言うのよ。男の子は生まれつき病気がちで、気が小さくて、甘えん坊な子が多いから、たくましくなつてほしいと、育てたのよ。」と言っていました。

副育成会長

伊達 芽利子



学校教育が学問に肩入れしていた時期も、社会が競争意識に明け暮れていた時期も、BSは淡々と、心身を鍛える事に集中していました。

今や、ボーイスカウトは現代社会の申し子として、教育の一翼を担っています。時代ごとに社会性、歴史感、文化は異なるでしょうが、教育への期待は非常に大きく、教育こそが、国家の命運に関わると言う方も多くいます。心身を鍛え、積み重なり練り上げられた生活の知恵を身につけ、仲間を尊重し、興味と追求心を持って活動する場として、BSは最高の組織です。BSが、1世紀に向かって展開し、広がり、深まっていくことを祈念し、心からお祝いし、深い感謝を申し上げます。

祝 団創設50周年

副育成会長

鈴木 多津子

今、私共夫婦は高齢者と云われる年代に突入しました。

30代後半、50代はボーイスカウト活動に明け暮れていたように思います。もちろん仕事もバブルの時代で右肩上がりの時期でした。人生の中で一番活力ある重要な時期に家族が一つの方向に向けて結ばれていたのはボーイスカウト活動があつたからと本当に感謝のみです。

ボーイスカウト活動の目標である青少年の健全育成はもろろんのこと成人の精神的な成長にも素晴らしく関与していることを深く感じるこのごろです。人間は幾つになつても成長するべきであること、ちかいとおきてをもつて教えられました。活動の渦から少し外にでて、つくづく感じております。ボーイスカウト活動に関わっていた経験は人生の宝物だと実感しているこのごろです。宮澤先生の「どうせやるなら熱くやれ」という歌があつたの

が思い出されます。宮澤先生、坂田隊長、齋藤先生ご夫妻その他多くのの方々本当にありがとうございますと私共夫婦2人で心よりお礼申し上げます。

今ご活躍の皆様、12団の益々のご活躍を宜しくお願いいたします。多くの方々の幸福な人生のために……

弥栄

日本ボーイスカウト浜松12団 創設50周年によせて

監査委員

牧野 友康



ボーイスカウト（以下BS）運動の創始者ヘーデンパウエル卿がイギリスのブラウンシー島で実験キャンプを行ったのが1907年といえますから、BSの歴史は約100年です。日本ボーイスカウト浜松第12団は、その半分もの歴史を持ち、ここ浜松の地で多くの立派な公民を育ててきたことになりました。貴団の皆さまには、心よりの敬意と称賛を送ります。

私は縁あつて、貴団の監査役をお引き受けているわけですが、いつも送って頂く「たより」や、監査する会計その他の資料を通じて、その運営

の素晴らしさに感動すらしております。

また、平成20年に全国初となるNPO法人の認証を受けたことは、極めて意欲に満ちた取り組みであり、今後のBS運動の社会的評価を向上させるためにも他団の模範となることでしょう。

この50周年を機に、貴団がますます発展をされますよう心より祈念し、私からのお祝いの言葉といたします。

未来へつなぐ12団スピリット!

副団委員長

齊藤 晶子

12団との出会いは、息子の友達のご両親からの紹介でした。私自身スカウト一家(GS)に育ち、子供にも是非スカウト活動を体験してもらいたいという願いから入団しました。

入団後は親子で活動に参加し、多くの貴重な体験をさせていただき楽しい思い出も沢山できました。その後、私は指導者として講習会、研修所、実修所に出させていただくようになり、あらためて12団の素晴らしさを実感しました。それは12団発団から多くの指導者の方々

により基本を忠実に実践し引き継がれているスカウティング、そして皆で知恵を出し合い作り上げて行く「12団スピリット」の存在です。今さらながらその恵まれた環境の中で活動してきた事に深く感謝をしています。

今年50周年という節目を迎え、諸先輩方々の築いて来られた輝かしい歴史を礎にし、「12団スピリット」を更に12団の未来へとつなげて行く事が私達の使命と考え、今後微力ながら務めさせていただきます。



50周年に寄せて

団委員・指導者養成委員長

古澤 裕子



浜松12団に参加してすぐに、25周年がありました。

そして今年50周年、しばらく転勤で抜けていた時期はありましたが、時間のたつのは早いものです。

人との関わりが下手だと思いついて入団させた長男は、児童会、生徒会に参加し、しっかりと人と関わることができるようになりました。ちょうどそのころBVSの試行隊があり、二男も参加させていただき、三男は、サッカーが忙しくて途中で抜けさせていただきました。デンが、長い付き合いとなりました。

マザーから始まって、BVS副長、VS副長、そして今は団委員として参加させていただいています。子供がお世話になったからと思い、奉仕させていただいています。昔とはずいぶん変わってきています。

共働きの家庭も多く、働きながらの奉仕をされているリーダー、団委員の皆様には、頭が下がります。縁の下で支えてくださる皆様があるから、活動が成り立つことを、皆が理解して、これからは皆で盛りたてていければ、と思います。

12団との出会い

組格委員長

竹田 みどり

三指12団創設50周年おめでとうございます。そしてこの12団の一員として、携わってこれた事を嬉しく又誇りに思います。

上の息子が小学1年の時に学校で貰って来たチラシを見て参加したのがきっかけとなり、内向的な息子にはこの活動が必要と即入団しました。その息子も今年30歳となります。下の息子もお世話になり社会人となりました。子供達がスカウトの時は一諸に活



動に参加し、楽しみその後カプ隊リーダー、団委員、ビーバー隊長等団のお手伝いを見せて頂きながら気がつけば親子共々成長させて貰ったなと感じます。

今はスカウト達の成長して行く姿を見られる事に幸せを感じています。「ボーイスカウトっていいな」元気に活動してくれるスカウト達そして保護者の皆さんに感謝します。

12団の輪が更に大きくなっていく事を願います。今後共よろしくお願い致します。

弥栄

祝 ボーイスカウト浜松第12団創設50周年

野営行事委員長

竹内 宏之

創設50周年おめでとうございます。すばらしい時代の年輪を刻まれてきたことに敬意を表します。

半世紀にわたって活動をしてきたことは、大変な努力があったことと思います。スカウト活動はボランティアでの支援を基に、様々な魅力ある活動をされてきたことで人々に支持され、継続されてこままでやってこられたことだと思います。私もそれに携わってこられたことを誇りに思っております。

2006年4月に子どもをビーバースカウトの体験会に参加させたのがきっかけで、保護者としてスカウト活動に参加し、普段の生活では体験できない貴重な活動を重ねていくうちに子どもの生き生きとした姿を見ました。気がつけば自分も子どもと一緒に活動を楽しんでおり、聞けば専門の講師陣がスカウト活動を行っているわけではなく、スカウトの保護者が必要な知識、技能を身につけてスカウト活動をしていることでした。それを聞いて自分もスカウト活動に対する知識を得ながらお手伝いをしてきました。その後



ビーバー副長カプ副長を任命され、現在は微力ながら野営行事委員長に至っております。これからも更なるステップアップを目指し、自分たちがスカウト活動に對し何ができるのかを見極め、自分たちでできることから支援していきたいと思っております。

スカウトの心をくすぐる活動リーダーが楽しみながら支援が必要だと思えます。「楽しい野外活動」漠然としています。楽しいことはだれもが一生懸命になれる。この気持ちを大切にしつつ、浜松12団のこれからの更なる発展、継続を祈念し弥栄を送りたいと思います。

父の訓え

野営行事委員

宮澤 総介



父（宮澤廣）は無言の教育という言葉に拘りがあつた。そのものズバリのタイトルをつけた冊子まで印刷したほどである。若い頃その冊子を見て、「要するに、何も言わずだまっただけだよ」と言つて妹といっしょに笑つた。

たしかに、私は父から、ああしろ、こうしろと指示された記憶はない。やや不満があるときだけ「なんで、そうするのだ？」と言つ程度であつた。しかし、何も言われないと、父はどう思つていいのかと考へてしまう。古いものを大切に、おみやみに高価なものを買わない、ギャンブルはしない、なるべく広い視野をもつて物事を考えることなどは、父の影響を受けて知らず知らずのうちに身につけた習性であるかもしれない。

発団50年によせて

財政委員長

新屋 一恵



発団50年おめでとうございます。50年というと約半世紀。そのような歴史ある団と関わりを持って、とても光栄に思います。

私と12団の関係は、この10月に新たにベンチャー隊1年生になった長男がビーバー隊の時からなので、約8年ほどになります。長男の同級生のお母さんから情報を頂いて、体験会に来たのがきっかけです。それ以来、親子ともども、楽しい隊集会や苦しい？隊集会を乗り越え、現在に至ります。時には、行きたくないという長男の尻をたたき、また時には自分の尻もたたき、ここまでやってき

振りかえつてみると、私は父の意思でカブスカウトに入団した。したがって、最初はちつとも楽しくなかった。より興味がある自転車やプラモデルで遊びたいと思つていた。ボーイスカウトになつて多少面白みを感じてきた。キャンプやハイキングに加えて進級試験に挑戦する楽しみが増えたからだ。技能章をたくさんもらえることもうれしかった。そしてシニアスカウトになると自然のなかでおおいに青春を謳歌した。このころは最高の時代であつた。スカウトの自主性に任されていたからやりたい放題であつた。反面、自己責任ということを感じ始めたころであつた。自然のなかで暮らすことは生きることの基本を学ぶことであつた。「食つて、寝て、簸る」ことの大切さを知つた。

私がスカウト生活のなかで身につけた、もっとと社会生活に密着した具体的なこと、今でも大切にしている信条がある。約束を守ること（カブスカウトのさだめ）、時間を守ること（ニコニコ5分前）、準備を怠らないこと（そなえよつね）の3つである。これら3点を守らない大人はいくらでもいる。まったく嘆かわしいことである。この3点を私の宝としてくれたボーイスカウト12団と、いやがる私を無理やりカブスカウトに入団させた父には、今では心より感謝している。

ましたが、振り返るとあつという間の8年間でした。

最初の頃は、荷物の準備さえまともに出来なかつたのに、今では9泊10日のジャンボリーの準備も一人で出来るようになり、それもこれも12団の中でたくさん学びを頂いたからだに心から感謝しております。

私が産まれる以前に、宮澤先生を中心として発足した12団。多くの諸先輩方のご指導とご協力のお陰で築かれた50年の歴史に、敬意と感謝の意を表しつつ更なる12団の発展を心からお祈りしております。

12団にお世話になつて

進歩委員長

池田 恭子



私は、進歩委員でスカウトの面接に携わってきました。スカウトの発言、キラキラした瞳、襟を正した姿に成長の姿が表われて感動的です。

息子が12団に入団して、10年以上になります。早いものです。カブスカウトで入団し、ボーイ・ベンチャーを経て、現在はローバースカウトです。成長を喜んでくれる良いリーダーに恵まれ、同じ釜の飯を一緒に食べた良い仲間にも恵まれ、たくさんのお話を聞きました。今後の生活に役立てていくことでしょうか。

主人は、デンリーダーとしてスカウトと共に活動したことが、とても楽しかったようです。今でも思い出話で盛り上がる事があります。

五十周年を迎えて

広報委員長

松本 健一



五十周年おめでとうございます。半世紀もの長い間、12団を支えてきた先人の情熱と努力に敬意を表します。

12団との関わりは、長男が小学2年の時にビーバー隊にお世話になつたのがきっかけでした。最初は敬礼も整列も満足にできなかったのが、徐々にスカウトらしく、たくましくなつて行く様子を見て、やっぱり入団させてよかったなあと思うようになりました。そんな息子も、ベンチャー、ローバーへと進みました。

ある日、デンリーダーになりました。そのお話がありました。「私が？」と思つたのですが、長男がお世話になつたことを考えると、何かの形でお手伝いをしたかと思ひ受けました。不安だったの

ですが、先輩リーダーに助けられ、どうか役目を果たすことができました。

やってみると、こんなに面白く、楽しいものなのかと。そして、わくわくどきどき驚きの連続です。スカウトを指導することは、同時に教えられることもたくさんあり、まさに目からウロコを実感しました。

現在は、広報委員長を担当しております。最大の仕事は、12団内外への情報発信です。時代についていけない「おじさん」ですが、デジタルやパソコンをいじくつて頑張っています。

栄光の50年を振り返るとき、それは新たな50年のスタートでもあります。発展し続ける12団に 弥栄！

祝50周年

情熱の12団、さらなる発展へ

ビーバー隊隊長 高橋弘



私の12団との最初のかかわりは息子の入団でした。私も少年時代スカウトとして充実した時間を過ごさせていただきました。社会人となり、再度ボーイスカウト活動とかかわることとなりました。その縁が12団であったことに、深く感謝を申し上げます。

12団は規模や活動内容、支援体制などをとつても皆様の情熱が随所に感じられる、すばらしい団であります。保護者から副長そして現在の隊長という立場になって、ますますその思いを

深く感じる次第です。ビーバー隊長という立場で50周年という瞬間に立ち会えることは大変喜ばしく、また60年・100年と引き継いでいくべく、身が引き締まる思いです。

ボーイスカウト活動は幼年期から青年期への一貫教育です。そして子供達の可能性を広げる活動でもあります。そのお手伝いをさせていただける。育児は育自。自らも成長するためのスカウティングです。ぜひ皆様と一緒に、今後も活動していきましょう！

祝50周年

12団のさらなる発展への思いをいめ

カブ隊隊長 近藤淳



50周年を迎える記念すべきときに、カブスカウト隊の隊長として立ち会えることは大変うれしいことである。長年にわたって全国でも有数の規模を維持していることは驚くべきことである。多くのスカウト、そしてその保護者を引きつける魅力を12団が有している証である。ところで、青少年の現在の状況を見るにつれ、BS活動の重要性を感じる。学校

教育だけでは、残念ながら「自ら判断し、決断・行動出来る」能力は簡単に身につかない。昔は、日常の遊びの中で自然に身についた。しかし、現在では、そのような機会は少ない。このため、自然の中での活動を主とするボーイスカウト活動が重要となると考えている。スカウト活動で得た事柄をスカウト活動以外でも生かせるように身につけるには、よく言われるように、継続が必要不可欠であろう。そして、最終的に指導者として、特に12団の指導者として、スカウト運動に是非とも係わっていただきたい。これまでに培われた伝統を継続し、さらに発展させるために。

ボーイスカウト活動について

ボーイ隊長

藤川裕治



ボーイスカウト浜松12団が、今期で50周年を迎えられることができたことは、1年、1年、関係してきた人たちの努力の積み重ねであり、浜松12団のボーイスカウト活動が楽しく魅力的な活動であったからだと思います。その歴史の重さを感じながら、さらに、スカウトにとつて、楽しい、魅力的な活動となるよう進めていきたいと思えます。

私が、息子3人のボーイ隊での活動を見て、感じたことは、ボーイ隊の活動を通じて、自主性、自立心が養われることです。ボーイ隊の活動は、班長を中心にスカウト自身の活動が主体となります。班長は、楽しい活動にするために、また、優秀班をとるために、知恵を絞って班員に指示を出して、班員がうまく活動できるように指導します。うまく活動できない班員や指示に従わない班員には、やり方を教えない班員はなりません。大変ですが、自然に指導力がついてきます。班員にとつても、楽しい活動をするために

は班長の指示にしっかりと答えようとする。与えられた役割を責任をもって実施する喜びを感じるようです。

学校生活と違って、リーダー（大人の指示ではなく、班長中心のスカウト（子供）の自主的な活動がボーイ隊でのスカウトにとつての魅力的な活動だと思えます。

最後に、保護者の方は、ボーイ隊の活動がよく見えない場合があるのではないのでしょうか。スカウトには家に帰ったら、その日の活動を話すように言っています。が、是非、活動の場に遊びに来て、子供の姿を見て下さい。きっと、家庭で見せる姿と違うかもしれません。そして、楽しい活動だと思ったら、リーダーとなつて、スカウトといっしょに活動を楽しんでみませんか。随時、リーダーを募集しています。

私の想い

ローバー隊長

杉山喜一



今私に何ができるか。今回この文章を書くにあたり、最初に考えたことがその一言だった。残念な事に、すぐに良い答えが思い浮かばずに時間だけが過ぎてしまった。

今、私に必要なこと。それは、時間だと思ふ。今後自身がどうしていきたいのか、どのように活動に貢献し、若い世代を中心にボーイスカウト活動を盛り上げていけば良いのか。それを考える時間が必要なかもしれない。人の輪は、小さな所から広がり大きな輪になっていく。現状、若手が集まっ

て自分たちの活動をする機会というのは減っていると実感している。私が出来る事といえば、まずは集まる口実・きっかけを作り小さな交流から始めていくことが必要と考えている。

50周年迫るこの節目の時期をチャンスと捉え、若手の活気ある活動が継続できるような私も何かきっかけ作りをしていきたいと考えている。次回是有意義な内容が書けることを期待しつつ…。

祝！創設50周年

支える会 市原利枝子

12団創設50周年、おめでとうございます。発足以来、多くの方々のご尽力により今日を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。私は団委員「広報」の一員として8年間を過ごさせていただいた後、現在は「支える会」に所属しています。

「12団」とのご縁は長男（現在28才）が小学一年生で入団した時から始まりました。入団してすぐ愛知県民の森での団キャンプがありました。整然と組まれたキャンプステージ「くまスカウト」のお母さん方の献身的な行動に圧倒されたことを今でも鮮明に覚えています。息子には健康第一、たくましく生きていく力をつけてもらいたいという気持ちから親子共々ボーイスカウト活動に参加しました。ビーバー隊への親子での参加は心温まる良き思い出となっております。一族では味わえない多くの体験をさせていただきました。主人も次第



に指導者として関わるようになりボーイ隊の副長を務めさせていただきました。共に過ごしたスカウト達も今では立派に成長されていることでしょう。

私は当時の鈴木洋三団委員長からお聞きした「12団家族」という言葉の響きが大好きでした。「12団」という大きな組織の団結と各隊の連携を図る素

最後になりましたが、来たる100周年に向けて「浜松12団」の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

祝 創設50周年

元カブ隊副長 坪井悟



私は義姉中嶋正子の勧めで、長男晴央にとつて良い経験になると思いお世話になりました。皆さんがボランティア精神で活動しているのを見て、感謝しておりましたところ、宮澤先生から手伝ってくださいと半強制的に頼まれました。副長を8年間みっちり勤めました。県知事から感謝状一枚の証拠（ドコカアルカナ？）が来ました。

カブの子等とターザンで沢を渡り、天竜川ジャンゲルの川下り、蛇を流しても驚かない、引佐の山では「ここは夢の国です。昨夜の雨で甘い雪が降りました。」と説明終わらぬうちに「あっ！判った給が枝に吊るしてある。」といち早く飛び出す。大人の企みが如何に甘かったか！今の子等の利発さにタジタジ、こっちが教わる始末。

私は30歳から会社を立ち上げ35人規模の製材業をやりながら、良く時間を割いてきたものだと思う。しかしこの経験は経営者にとつて、どんなに糧となったか感謝しております。

祝 創設50周年

元カブスカウト副長

鈴木尚子 本多美恵子 齋藤佳枝

B S浜松12団50周年おめでとうございます。

私達3名は（初めは4人でした）10年以上浜松12団に関り活動して来た様に思います。子供達が順々に12団に入団しデンマザーを経験した時よりドップリとカブスカウト活動に関わって来ました。デンマザーとしての経験を生かし、副長として隊長のもと、隊長とスカウトの間に入って、充分にスカウト活動が出来るようにと行動して来ました。その間、常に指導していただく立場に宮澤先生が、そして神谷・望月・坂田・仲田隊長方のお世話になり隊集会を補佐させていただきました。隊集会の思い出は沢山あります。...

・天浜線の由来を調べたり、絵地図を描いたり

・白倉キャンプでは、キャンプファイヤーはインディアンの火矢での点火
・乗鞍山頂の天文台への登山、雨天のなか山肌を駆けずり回る稲妻に恐れを感じ

・都田川では段ボールの舟を作り、川をくだり。ナイトハイイクで新居弁天まで20キロ歩き終点でのトン汁の美味しかったこと！

・SLの旅 金谷く千頭南アルプス大井川溪谷トロッコ列車に揺られ
・凧祭りに感化され大きな凧をお父さんと作りました。頑張っても上らず走り回ったこと 等

それでも、楽しい隊集会を、沢山たくさん経験させていただきました。私達3人はいっぱいの思い出を持っています。浜松12団には大変にお世話になりました。心より感謝しています。



団創設50周年おめでとうペンギんがります

元スカウト
元ボーイ隊副長
元シニア隊副長
元ローバー隊長



森田一彦

団創設50周年おめでとうございます。当時小学2年生だった私はボーイ隊が無かったのでカブ隊付きのひよこ隊として7団に入隊しました。(隊の本拠地であった住吉幼稚園のマークがひよこでした。そしてその園長先生が宮澤廣先生でした。)

翌年同じ住吉幼稚園で7団から分団した12団の発団式が行われ、晴れて12団のカブスカウト隊に入隊した事を思い出します。それから50年が経ったのです。

当時はトータムポールを作ったり、インディアン衣装をしたり、住吉幼稚園の裏山でワイドゲームをしたり楽しかったなあ。歌もたくさん覚えまして。クイカイマニマニ、サーラスポン

ダ・・・今考えるとへんてこな歌だけど大声で一所懸命歌って楽しかったなあ。

当時カブ隊の宮澤廣隊長はいろんな歌を教えてくださいました。スマー トって言葉を教えてくれたなあ。それからボーイ隊でお世話になった三輪隊長、フアイヤーでの神様の格好今でも覚えています。シニア隊になって良く三輪隊長の自宅にお邪魔しました。

社会人になってご恩返しと言うわけでもないけど、それぞれの隊長の魅力を引き寄せられ何年かボーイ隊のお手伝いをしてあげた。スカウトに何か伝える事できたかな？

ローバー隊で行った富士登山、あれから私は毎年登り続けていますよ。あの極寒の富士山頂、みんな寒くて泣きながら寄り添ってご来光を待ち続けたね。その後のご来光の素晴らしさ続けたらなあ。新居港から魚船に乗って遠州灘沖に釣りに行きアジサバを沢山お土産に持って帰ったなあ。みんなで始めたパラグライダー。パラシュートだから降りて来るものかと思ったら上昇気流に乗って昇っていく事を知った時は感激したなあ。

これからはスカウト、リーダーをはじめとする12団の皆さんに素晴らしい思い出と感動をそして12団のさらなる発展を祈ります。

弥栄

浜松12団に入団して

元スカウト・株式会社浜松テクニカルセンター 代表取締役

佐野隆雄

12団創設50周年、おめでとうございませう。

兄がカブスカウトに入団していた為、私はひよこ隊から入隊いたしました。もう30年位前になります。12団では、本当に色々な事を経験させて頂きました。住吉幼稚園、浜名湖へのナイトハイイク、鼓笛隊での浜松祭りのパレード、スキー、朝霧高原でのシニアスカウト大会、北海道でのローバームート、成長期に色々な事を経験出来た事で人間形成の糧になったと思います。

先日、父の車に同乗している時、私が「この神社ナイトハイイクの時、豚汁食べた所だ」と言ったら父が「炊き出したなあ」とつぶやきました。私も6歳と3歳の子供がいる父親になり、この言葉を聞くと大人の色々なサポーターがあり私が楽しんでスカウト活動が出来たのだなと感じました。

テレビなどで川の中州でテントを張って取り残されたなどの報道を聞くとボーイスカウトに入っていればなどと思う事が多々あります。



人間が本来身に着けないといけない事を知らず知らずの内に身に付けさせてくれるのがスカウト活動だと思います。「そなえよつねに」と言う言葉は体の中にしみついている感じがします。宮澤先生、カブスカウト、シニアスカウトの坂田隊長、ボーイスカウトの洋三隊長、ローバースカウトの森田隊長、サポートして下さった方々、12団に在籍していたことを心から感謝しております。

浜松12団の益々のご発展を心よりお祈り申し上げます。

ローバー隊副長

竹田和矢

ボーイスカウト活動は、学校では教えてくれない大切な事を学ぶ事ができる。

元スカウト

古澤潤也

この夏、友人に誘われ、久々(十数年ぶり)にキャンプに行く予定です。テント設置は、こんな簡単じゃなかったとか、薪は使えないんだとか、時代の移り変わりを感ずつ、何だかんだ楽しめそうです。で、現在はご飯をどうしようか、思案中です。

そういえば、キャンプの時に、前日支給された餅を使い忘れたので、シチューに餅を投下したことがあったなあ。これが餅がトロトロで想像以上に美味しかったのですが、最終的に鍋にこびりついて、後片づけが悲惨だったという事に思い出深い一品です。こんなスペシャルなメニューが出来るのもキャンプならではの。さてさて、どんなメニューにしましょうかね。

何はともあれ、浜松12団、50周年おめでとうございます。

元スカウト

浅井雄大

私はボーイスカウト12団に約10年間所属させて頂きました。その10年間で経験したことは、今の仕事や生活での引き出しの数を増やしてくれました。何気なく経験してきたことは、一生の財産になると今では確信しております。次世代のボーイスカウトの益々の繁栄に期待しております。

元スカウト

山田晃史

ボーイスカウト12団では、様々な世代の方々と関わったのがとても大きかったです。様々な方々と関わり、様々な経験をしてきたことが今後の人生において僕の自信に繋がるはずなんです。

12団はボーイスカウトの団体の中でも特に素晴らしい団体だと思います。12団に関わっている方々は12団だというプライドを持って活躍していつてももらいたいと思います。

元スカウト

竹田竜俊

大変な事やどんな状況にあっても、楽しんでやる事が大事、今その気持ちの持ち方を大切にしている。

ローバー隊スカウト

池田正義

ボーイスカウト活動の中で印象に残っているのはイカダでの川下りです。自分たちの作った物で大きな自然に挑んだ瞬間はこれが最初であり最後であったような気がします。

今僕は大学の研究室で化学の実験をしています。研究の中では実験を行う計画性です。これは一日の中でどのようにやるか、一ヶ月でどこまで実験をこなすかと言う両方があります。また実験に対して反省を行います。これはベンチャースカウト時代のプロジェクトと重なる部分が多く、今までの活動が今の毎日に生きていると思います。

ローバー隊スカウト

松本祥仁

ボーイスカウト浜松12団結成50周年、本当におめでとうございます。私自身は、小学2年生より所属しております。最も躍動すべき学生時代をボーイスカウトと共に過ごし、現在、成人となり共に祝えることを喜ばしく思います。

スカウトとして思い出深いことと言えば、日本ジャンボリー・世界ジャンボリーに参加したことです。12団や世界のスカウトの仲間達、そして支えてくださる地域と保護者の皆様との繋がりを感じ、同時に活動の大きな可能性を感じた瞬間でもありました。

ボーイスカウト活動は一面的な技能だけに留まらず、自らの精神・社交性をも大きく成長させる「もう一つの学校」とも言えるべき素晴らしい活動と考えております。

これからも、12団の増々の隆盛を願っております。

弥栄



50年のアルバム

浜松第12団 NPO 法人化秘話

ベンチャー隊副長 西村清矢

浜松12団は団としては第50期そして特定非営利活動法人（以下NPO法人）としては7期をむかえます。2008年（平成20年）4月4日に臨時育成会総会を開催していただき、NPO法人化を承認して頂いた時点では、日本中の団はすべて任意団体でNPO法人になった例はありませんでした。

・マネーロンダリング対策で預金口座を開設するのが、任意団体名では厳しくなり会計担当名で口座を開設しているため、会計担当が変わるたびに、名義変更する必要がある

・団倉庫敷地は団委員長個人名で、使用賃貸状態でお借りしているため、所有者が必要になれば、即、団倉庫を移転する必要がある（2002年（平成14年）および2006年（平成18年）には実際団倉庫を移転している）

と言う問題を解決する手段としては、団を法人化するしかないという結論に達し、2004年から「副団委員長として」個人的に検討していました。その結果2003年に法改正され、認定が取りやすくなったNPO法人にはなれそうという結論に達し、2006年NPO法人化特別委員会にて時の仲田団委員長・村上千秋副団委員長・鈴木多津子副団委員長および牧野友保監査委員に加わっていただき法人化メリットを最大化し、デメリットを最小化するNPO法人化を正式に団として検討に入りました。その結果、NPO法人化のデメリットとして、一般的に「会計・事業報告の煩雑さ」が挙げられますが、浜松12団は任意団体としても会計・事業報告はきちんと実施しており、収益事業を行わなければ、登録税・法人税とも免除であり、不利益はないとの結論に達しました。

一方、当初は公益を重んじるNPOなので、日本ボーイスカウト連盟に登録している「団」をNPO化するのとはまずく、育成会をNPO法人化し、団に資金を提供するという方向で考えていましたが、認証機関である「浜松市」に設立予備相談をしたところ「一つの団体にのみ資金を提供するのは、公益（＝不特定かつ多数のものへの利益）に反する。一方、団には誰でも参加可能なので団をNPO法人化しても問題ない」と回答を受け、浜松12団は日本で第1番目のNPO法人となることになりました。

今後「地域社会に根ざすスカウト運動」を更に推進し、寄付金額の最大で約50%が、減税という形で寄付者に返ってくる、【税額控除制度】が適用される「認定NPO法人」認定への道を検討してゆきたいと考えています。





1963年（昭和38年）12団創立記念



1963年（昭和38年）発団直前のスカウトたち



1963年（昭和38年）12団団委員



1963年（昭和38年）発団直前のカブスカウト運動会（浜松第7団）



1982年（昭和57年）浜松祭りパレード



1973年（昭和48年）10周年記念 <二十年誌より>



1982年（昭和57年）鈴鹿1回交歓会 <二十年誌より>



1980年（昭和55年）スカウトハウス落成記念 <二十年誌より>



1990年（平成2年）ある日のキャンプにて



1986年（昭和61年）県キャンポリー大会

アジア4カ国のシニアスカウト

教育長を表敬訪問

河合教育長（右端）から記念品を贈られる
シニアスカウトら＝浜松市役所で

浜松市内にホームステイしているアジア四方国のシニアスカウトらが一、市役所に河合九平教育長を表敬訪問した。

あすから大会参加

一行は三日から滋賀県・今津町で開催する第三回シニアスカウト大会・日本ベンチャー宛に招待されたマレーシア、オーストラリア、パキスタン、タイのシニアスカウト、指導者の十人、受け入れ責任者の中村昌春ボーイスカウト浜松東地区コミッショナーら地元ボーイスカウト関係者とともに市役所を訪れた。

河合教育長は「浜松へようこそ、これを機に相互の国、町との友好が深まればうれしい。シニアスカウト大会での経験を将来に生かしてほしい」と話し、それぞれに市からの記念品を手渡した。

一行十人は三十一日から三日まで、市内のボーイスカウト隊員家庭にホームステイした後、今津町のメーン会場をはじめ鈴鹿市、奈良市など周辺の活動基地に散らばって、自然の中で繰り広げられる多彩な活動に参加する。シニアスカウト大会は十日まで。

1992年（平成4年）アジア4カ国シニアスカウトホームステイ受け入れ



1988年（昭和63年）25周年記念



2003年（平成15年）緑の羽根募金



1997年（平成9年）ローバー隊富士登山



2003年（平成15年）40周年記念



2003年（平成15年）当時の団野営場



2008 年 (平成 20 年) 45 周年記念



2010 年 (平成 22 年) 47 周年総会式典にて



2012 年 (平成 24 年) 入隊上進式



2007 年 (平成 19 年) 入隊上進式



2008 年 (平成 20 年) 選考式



富士章取得者 喜びの言葉



ベンチャー隊スカウト

袴田 真由

富士章は、これまで私が12年間ボーイスカウト活動を行ってきた集大成です。今回富士章を受章することができたことを、本当に嬉しく思います。

スカウト活動というのは、ちかとおきてに基づいて、同年代の仲間たちと共に一緒に活動していくことの大切さを学んだり、地域や社会、人のために尽くすことの尊さを学んだりする絶好の場だと思っています。スカウト活動で学んだ様々な経験を、生涯の宝物にしていきたいと考えています。またこれらの経験を通して得たものを、後輩スカウトやこれから出会う全ての人々に伝えていけたらと思っています。

特に私は、世界ジャンボリーに参加し視野が広がったことで、よりスカウト活動の楽しさを発見することができました。スカウト活動というのは国境のない活動であり、それぞれの国の同年代の仲間たちが、同じ経験をし、助け合って様々な経験を積んでいく、そんな活動です。これから富士章を目指すみなさんも、日本だけにとどまらず、世界に目を向けて活動することも1つの良い機会だと思います。

最後に、富士章受章にあたり、多くの方々に支えられて私はここまで成長することができました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。

ベンチャー隊スカウト

高橋 優

私は高校一年生から始まったベンチャー隊の活動において、プロジェクト活動でアワードを取得することは今自分を高めるだけでなく将来の武器になると思います。自らが企画計画して実施し、まとめる能力は職場でも必要でしょう。今回富士章取得は、ボーイスカウト活動ではまだまだ通過点です。最大限自分の能力を高め、磨きをかけるにはボーイスカウトは最適の環境です。そこから、他人への奉仕につながるよう行動できるようになればいいと感じました。今だけボーイスカウト活動をやっているからちかとおきてを実行するのではなく、学校、自宅、地域社会などでも実行していきたいです。

今回、一つの大きな目標である富士章受章に関しまして多くのリーダーや家族の協力があってこそこの成果です。これから社会人になって、ますます人と触れ合う機会も多くなるので、感謝と礼儀を忘れずに、生活していきたいです。



ベンチャー隊スカウト

多賀 大輝

私が富士章取得を意識したのはベンチャー隊に上進した頃でした。富士章の記章のカッコ良さに憧れて始めましたが、やってみるとそう簡単なことではありませんでした。富士章に必要なベンチャーの主な活動は、プロジェクト活動で、企画、計画、実施、報告を計画的に行っていくというものです。初めの頃は、計画の段階でなかなかうまくいきませんでしたが、やっていくうちに慣れていき、スムーズにできるようになりました。しかし、実施から報告の過程は、学校との両立も難しく、スムーズにできるようになるまでにはだいぶ時間がかかりました。しかし、これらの作業は、大学、そして社会に出て重要となる能力なので、とても自分の為になったと思います。また、スカウトのおきてにもある「感謝の心を持つ」ということの大切さを学びました。

私が富士章を取得できたのも、自分の力だけではなく、リーダーをはじめ、両親、仲間の協力があってこそ出来たことだと思います。これからも日々、感謝の心を忘れずに生活していきたいと思っています。

最後に、私は初め、記章がかっこいいという軽い動機で取得を目指しましたが、富士章を取得した時には、記章よりも大切なことをたくさん学んでいました。

今までのスカウト活動で学んだことをこれからの人生や社会のために役立てていきたいと思っています。



<保護者からの言葉>

この度は、高校3年生の長女真由の「富士スカウト」受章に関しまして、指導者の方々に深く感謝しております。本当にありがとうございました。いい仲間とも出会い、浜松12団という50年の伝統と歴史のある団でスカウト活動ができたことを大変誇りに思っております。父親が12団出身で「富士スカウト」を受章していたこともあり、真由本人は、幼少時より「富士スカウト」をある程度意識していたように思います。ピーバースカウトよりスカウト活動をスタートし、途中、部活動や勉強との両立で思うように活動できなかった時期もありましたが、最終的に、今まで本人の過ごしてきた人生のまとめを「富士スカウト」として締めくくることができました。保護者から本人を見ていても、自分自身の意志をしっかりと持ち、何事にも積極的に取り組んでいる様子の真由に安心しています。そうした真由を目標に、小学校2年生の次女真央はピーバースカウトからカブスカウトに上進して姉を追いかけたいです。高校1年生の長男修平は途中スカウト活動を離れ、現在スカウト精神を持ち合わせた野球部員として甲子園を目指し姉を目標に頑張っています。三人の子供たちに刺激され、父母ともできるだけ12団の指導者として貢献できるように努力していきます。今後とも御指導よろしく申し上げます。

<保護者からの言葉>

富士章取得する事が出来ありがとうございました。

浜松12団に入団したのは小学校1年生でした。ピーバー隊から始まり、カブ隊、ボーイ隊、ベンチャー隊と年齢に応じたいろいろな経験をし着実に成長した11年間、高校卒業年度にボーイスカウト活動の集大成として、富士章取得ができ本人としても嬉しい事と思いますが、私達家族においても大変ありがたく嬉しい事と感じております。

富士章取得に向けてのレポート作成はかなりボリュームもあり本人も大変だったと思いますが、団指導者の皆様のご指導を頂き感謝しております。最後になりますが一番重要だった事はここまで本人が継続できた事が何よりで、12団だったからこそ継続できたのだと感じております。12団の皆様ここまで継続させていただきありがとうございました。そして富士章取得ありがとうございました。今後とも御指導よろしくお願い致します。



タイムカプセル

12

タイムカプセル 2013

自分

将来の夢は科学者になることです。自分の作ったもので人に貢献したいです。
スノーレバード班 藤田 翼

将来楽しく過ごせたいいな。
スノーレバード班 長澤 直史

工業系の学校に入り、自分のやりたいことができる仕事についていると嬉しい。きちんと目標とか夢を持っているほうが楽しそう。
スノーレバード班 田浦 良太郎

10年後、僕はよりよい社会人になりたいと思います。
スノーレバード班 新屋太基

ぼくの将来の夢は、博物館の学芸員です。学芸員は、資料の整理をしたり展示の準備、説明などをやる仕事です。その仕事に就くために、何が足りないかをしっかり考えて、日々生活を送っていきたくです。
スノーレバード班 北川 孝暉

10年後には、もう25歳になるのでちかいかとおきてを忘れず自立して生活したい。
スノーレバード班 松田 健志郎

僕は今、なりたいものが決まっていないので、どんな仕事についてもいいように今のうちにしっかり勉強をして、なりたい仕事が出来た時になれるようにしたいです。
スノーレバード班 上田 有真

テーマ 大工
理由 物作りが好きだから。それにいろんな機械を作ってみたくから。
タカ班 渡邊 一輝

10年後の自分は、ボーイスカウトを続けていたいと思う。10年後続けたら、父が隊長だから、父の手伝いをしたり、カブやビーバーの子達と遊んだりしたいです。
タカ班 高橋 冨希

「10年後の自分へ」
自分の夢をつかんで、その通りに働いていますか？そして、どんな仕事についていますか…。今の私は中1で、陸上部で楽しく過ごしています。
タカ班 棚橋 沙弥香

ぼくは、工作がすきだから発明かになりたいです。けしゴムくらいの大きさのカメラや走るのがとても早いロボットが作りたくです。
中嶋 基力

私はマンガ家になりたいです。理由は、絵を描く事と本を読む事が好きだからです。
関根 唯花

私は花屋さんになりたいです。とげなど切ったり間引いたりするのを頑張りたいです。綺麗な花束を作りたいです。
岸 小春

僕は将来パイロットになりたいです。できれば、人のために働く自衛隊のパイロットになりたいです。また、そうなれるようにしっかりした何でもできる人になりたいと思います。やりたいことは、とりあえずアメリカ合衆国に行ってみたくと思います。
宮野 隼

私の将来の夢は、お客さんが「おいしい！おいしい！」と言って喜んで食べてくれる『ケーキ屋さん』になりたいです。
北川 花琳

ぼくはしょう来みんなに役立つものを作りたいです。ぼくも人が喜びを感じているときが一番すきだからです。
村上 和輝

お金持ちになって、魚をいっぱい飼いたい。
中川 修佑

ボーイになったらジャンボリーに行つて、外国のスカウトと友達になって、外国へ行つたりしたいです。だから、がんばって英語の勉強をします。
石野 由明

僕の将来の夢は、化石を発掘する人(考古学者)になる事です。理由は、保育園の頃から化石を発掘する人に憧れていて、恐竜がいる博物館に行つて色々な化石や動く翼竜などを見ては、成りたいと思うようになりました。
山本 祐也

私の将来の夢は、世界中の花を集めた花屋さんです。きれいな花束を作つてよるこんでもらいたいです。
桑原 佑衣

CA(キャビンアテンダント)になりたい〜!!
政木 明那

私の夢は、家族みんなで世界旅行です。
近藤 優衣

僕は将来、警察官や消防士のような仕事に就きたいです。理由は、誰かの為になることだし、英雄にもなれてカッコいいと思うからです。それには、勉強もたくさんしないとイケないし、心も体も鍛えないとイケないから、すごく大変だと思います。でも努力してなりたいです。ボーイスカウトも頑張つて、自分で考えて行動できることを増やしていきたいです。未来の僕、なれていますか？
佐々木 健太

一番

10年後の自分は、できれば就職して親にお礼をしたいと思っています。それが無理でもちゃんと働いて恩返しは、絶対にするつもりです。その後の事はとくに考えてませんが、働いて生きて行こうとおもっています。
イーグル班 松浦 兼大

僕は将来、警察官や消防士のような仕事に就きたいです。理由は、誰かの為になることだし、英雄にもなれてカッコいいと思うからです。それには、勉強もたくさんしないとイケないし、心も体も鍛えないとイケないから、すごく大変だと思います。でも努力してなりたいです。ボーイスカウトも頑張つて、自分で考えて行動できることを増やしていきたいです。未来の僕、なれていますか？
佐々木 健太

ロボットを作る人になりたいです。自分の会社が出来たらいいな。
大草 圭佑

日本で一番人気のパン屋さんになりたいです。
西塚 明里

将来になりたいことは、料理教室の先生です。料理を上手に出来るように努力して、おいしい料理を作つてみんなと仲良くなりたいです。
境 冬瑞

僕はマラソンを頑張つて箱根駅伝に出たいです。箱根の山を走りたいです。そのためにマラソンの練習を頑張ります。
山口 結作

ぼくの将来の夢は、科学者になってノーベル賞を取ることです。なぜなら、ぼくは実験が好きだからです。さらにぼくは、注射が苦手な、いくつ注射をしなくても治せる薬を作りたい、と思っています。夢が叶うように、あきらめないでがんばりたいです。
萩野 智仁

わたしは、ソーイングスタッフになりたいです。
島崎 睦巳

パイロットになって、たくさんのお客さんと世界中に行きたいです。
碓氷 海翔

僕は将来、恐竜の研究に関わる仕事に就いて、化石を発掘したり、進化について調べたりしたいです。やりたいことは、恐竜を蘇らせたいです。
山田 慎之介

僕は将来いろんな「博士」になりたいです。いろいろ作つたり、書いたりする「博士」です。だから今からも、いっぱい作つたり、書いたりします。
上田 真誠

10年後の僕は、進みたい道が見つかりますか？
タカ班 宮下 怜太

私の将来の夢は、テニス選手になることです。テニス選手は、体力や技術が必要とします。なのでしっかり練習をして上手になって、大会や試合で良い成績を残せるように頑張りたいです。
フクロウ班 北川 菜那

「10年後の自分へ」
どう？元気ですか？体には気をつけていますか？
フクロウ班 竹内 穂高

未来の自分へ
20歳になったぼくは、今どんな大人になっていますか。ぼくは今、13歳で観塚中学校で野球部に入っています。今現在の自分には、はっきりとした夢はありませんが、とりあえず、人生に悔いを残さないように行きたいです。
フクロウ班 牧野 翔太

今は自分滑舌が悪いので、そういうのが直つていて、好きなとこに自由に行きたい。海外に興味があるから、お金を貯めて、イースター島にモアイ像を見たり、どんどん行けるといいな。仕事については、全く想像がつかないな。あれもこれも興味があつても、仕事としてやりたいのかが分からない。将来の自分が、好きな仕事をしてほしいな。
イーグル班 阿部 遼太郎

私は、10年後でもボーイスカウトで学んだことを生かし、笑顔が絶えない日々を送れるようにしたい。
イーグル班 松田 玲奈

私は将来なりたく仕事がたくさんあつて、ちゃんと決まっています。今は金管バンド部に入つていてトロンボーンのパートリーダーです。なのでオーケストラのトロンボーン奏者になりたいです。でも絵をかくことも好きで、父が楽器のデザイナーなのでデザイナーにもなりたいです。ほかにはおしりがやつているような、とってもおいしいかま焼きパン屋さんにもなりたいです。だからもっと大きくなつて一番「やりたい」と思える楽しい仕事につきたいです。
イーグル班 中嶋 みと葉

精一杯

発見

好き

憧れ

2018

2023

2028

2033

2038

2043

2048

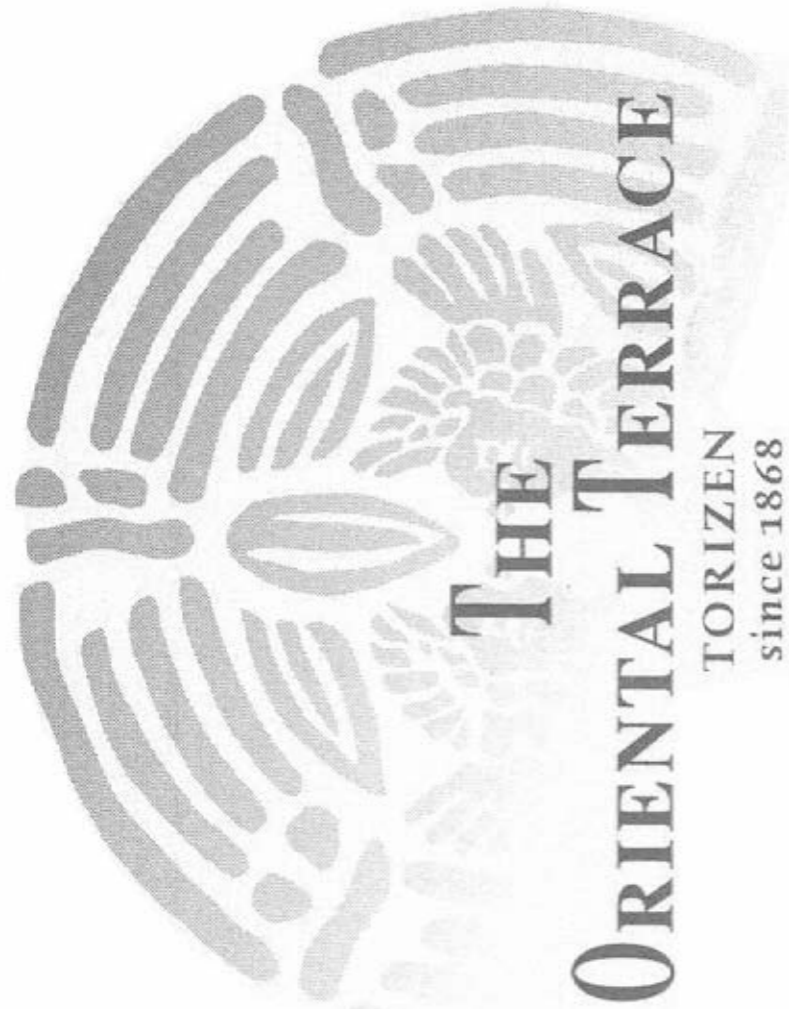
2053

2058

2063



50周年おめでとうございます



ジ・オリエンタル・テラス

鳥善本店

〒432-8021 浜松市中区佐鳴台6-8-30
TEL.(053)447-3241 FAX (053) 447-3243

鳥善食品部一水庵

〒433-8118 浜松市中区高丘西2-15-14
TEL(053)436-0080 FAX(053)430-4881

www.torizen.co.jp

50周年おめでとうございます

TOKINARC®

TOKIN CORPORATION

常に溶接の新しいあり方を追求し続ける**TOKINARC**®ブランドの製品は、
世界の自動車、電子機器、鉄鋼、造船分野で使用され、育まれています。

株式会社 トーキョ

代表取締役社長 金森 啓二

〒432-8006 静岡県浜松市西区大久保町1509 (浜松技術工業団地内)

T E L : 053-485-5555

F A X : 053-485-5505

e-mail : eigyou@tokinarc.co.jp

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

山田 大介

山田 一枝

住所 〒433-8125

浜松市中区和合町9 5 2-1-1

電話 053-479-0866

50周年おめでとうございます

the art of health building

じ きょう じゅつ

自彊術で若返る 1日たった
15分

今！医者だけに頼るのではなくて、自分の身体は自分で守る時代です。
自然治癒力を高めるための食事をし、それとともに運動をすること
この事は今まで以上に必要になっています。医療効果抜群の自彊術を
あなたもやりませんか！！



NHKカルチャーセンター浜松教室・社会保険センター浜松 他講師

鈴木 多津子 tazuko Suzuki

浜松市中区和合町192-38 TEL 053-471-3703 090-7685-5886

E-MAIL:tadsuko@xposut.plala.or.jp

50周年おめでとうございます

金指こどもクリニック

浜松市北区引佐町金指1547-9
TEL 542-1055
542-1117



診療時間		月	火	水	木	金	土
9:00 ~ 12:00	一般診療	○	○	/	○	○	○
	予防接種(予約制)	○	○	/	○	○	○
14:30~	乳幼児健診 (予約制)	/	○	/	/	/	/
15:00 ~ 18:00	一般診療	○	○ <small>就診終了後より</small>	/	○	○	○ <small>ワクチン外来</small>

※ TEL予約:予防接種・乳幼児健診⇒542-1055,一般診療⇒542-1117
※ 予防接種の時間は、TELにて御相談下さい。

50周年おめでとうございます

齊藤整形外科医院

浜松市中区小豆餅1丁目34-30

TEL<053>436-7031~2

診療時間 AM9:00~12:00

PM3:30~6:00

日曜・祝祭日休診 土曜午後休診

水曜午後は、診察はお休みとなりますが
リハビリは行います。

日付&メモ欄

この方にコーヒーを
差し上げて下さい



21世紀倶楽部/浜松駅前プレスタワー15F

工場〒435-0004

東区中野町1111

マケカサバ

430-0928浜松市中区板屋町612MCI802

代表取締役 **坪井 悟** 2boySaccha

TEL053-489-8222 FAX053-489-4843 ケタイ090-1834-1931

PC:S2boy@ma.tnc.ne.jp ケタイ:S2boy@ezweb.ne.jp



医療法人社団成宮会

なるみやハートクリニック

循環器内科

医師

成味 純
なるみ

純 じゅん

宮澤 総介
みやざわ そうすけ

循環器学会専門医・内科学会認定医・外科学会認定医
胸部外科学会認定医・超音波医学会指導医・インターベンション学会指導医

〒433-8108 静岡県浜松市北区根洗町537-1
TEL:053-414-2720 FAX:053-414-2721

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

相談役

宮澤 廣士

住所 〒430-0906
浜松市中区住吉 1-22-3
電話 053 - 471 - 5207

祝 団創設50周年

元ローバースカウト

浅田 裕也

住所 〒798-0084
愛媛県宇和島市寄松 803 C-2

祝 団創設50周年

相談役

松本 幹比古

住所 〒432-8058
浜松市南区新橋 548
電話 053 - 447 - 2781

祝 団創設50周年

相談役

鈴木 洋三

住所 〒433-8125
浜松市中区和合北 4-2-14
電話 053 - 471 - 3703

祝 団創設50周年

副育成会長

伊達 芽利子

住所 〒432-8068
浜松市西区大平台 1-13-11
電話 053 - 485 - 9137

祝 団創設50周年

育成会長

金森 啓二

住所 〒432-8013
浜松市中区広沢 2-44-12 407
電話 053 - 456 - 0899

祝 団創設50周年

副育成会長

仲田 始

住所 〒433-8125
浜松市中区和合町 315-154
電話 053 - 473 - 4947

祝 団創設50周年

副育成会長

鈴木 多津子

住所 〒433-8125
浜松市中区和合北 4-2-14
電話 053 - 471 - 3703

50周年おめでとうございます

診療時間 AM9:00~PM1:00
PM2:30~PM7:00

休診 日曜・祝祭日・木曜日
* 祝祭日のある週は木曜日診療

森田歯科医院

富塚小学校北 ☎473-8241

祝 団創設50周年

元育成会長

金森 武夫

住所 〒430-0904
浜松市中区中沢町 3-4
電話 053 - 473 - 2396

祝 団創設50周年

ホテルクラウンパレス浜松

HMI ホテルグループ

〒430-8511 浜松市中区板屋町 110-17
Tel/053-452-5111 Fax/053-452-7700
HP [クラウンパレス浜松](#) [検索](#)

祝 団創設50周年

元カブ隊副長

齋藤 佳枝

本多 美恵子

鈴木 尚子

祝 団創設50周年

ガールスカウト富山県連盟
城端第2団アダルトスカウト

今井 喜美子

住所 〒939-1862
富山県南砺市城端西下 173
電話 0763 - 62 - 0070

祝 団創設50周年

元ローバースカウト

古澤 潤也

住所 〒520-2141
滋賀県大津市大江 1-12-11

祝 団創設50周年

元スカウト

三輪 文人

住所 〒430-0906
浜松市中区住吉 2-18-10
電話 053 - 471 - 6007

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

広報委員

多賀 恵子

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 538-3
電話 053 - 489 - 5220

祝 団創設50周年

広報副委員長

竹田 みどり

住所 〒433-8121
浜松市中区萩丘 2-5-11
電話 053 - 471 - 9206

祝 団創設50周年

事務局次長

阿部 美佐子

住所 〒432-8058
浜松市中区法枝町 20 205
電話 053 - 442 - 6169

祝 団創設50周年

広報委員

萩野 美雪

住所 〒432-8013
浜松市中区広沢 2-13-5
電話 053 - 453 - 7591

祝 団創設50周年

事務局員

新屋 一恵

住所 〒433-8121
浜松市中区萩丘 2-23-1
電話 053 - 476 - 5650

祝 団創設50周年

事務局員

境 弘枝

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 3830-5
電話 053 - 479 - 1368

祝 団創設50周年

ビーバー隊副長

村上 剛

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 1056-18
電話 053 - 475 - 6128

祝 団創設50周年

ビーバー隊隊長

高橋 弘

住所 〒433-8123
浜松市中区幸 2-32-33
電話 053 - 476 - 6673

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

副団委員長

齊藤 晶子

住所 〒433-8111
浜松市中区葵西 2-17-15 804
電話 053 - 439 - 9706

祝 団創設50周年

副団委員長

和田 正三

住所 〒433-8112
浜松市北区初生町 762-2
電話 053 - 437 - 0492

祝 団創設50周年

副団委員長

西村 清矢

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 1618-7
電話 053 - 474 - 5408

祝 団創設50周年

副団委員長

近藤 淳

住所 〒433-8125
浜松市中区和合町 88-39
電話 053 - 473 - 2566

祝 団創設50周年

野営行事委員長

竹内 宏之

住所 〒433-8124
浜松市中区泉 4-17-27
電話 053 - 475 - 0879

祝 団創設50周年

指導者養成委員長

古澤 裕子

住所 〒431-1304
浜松市北区細江町中川 888-404
電話 053 - 477 - 2825

祝 団創設50周年

野営行事委員(健康安全担当)

宮澤 総介

住所 〒430-0906
浜松市中区住吉 1-22-3
電話 053 - 471 - 5207

祝 団創設50周年

野営行事委員

西川 嘉一

住所 〒432-0813
浜松市中区広沢 2-12-6
電話 053 - 452 - 0210

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

ボーイ隊副長

松田 達也

住所 〒431-3125
浜松市東区半田山 4-24-10 506
電話 053-435-7263

祝 団創設50周年

カブ隊副長

上田 共美

住所 〒432-8012
浜松市中区布橋 1-12-12
電話 053-471-2370

祝 団創設50周年

ボーイ隊副長

宮下 善幸

住所 〒433-8123
浜松市中区幸 4-22-9
電話 053-473-0607

祝 団創設50周年

ボーイ隊副長

春日 浩江

住所 〒432-8021
浜松市中区佐鳴台 3-4-507
電話 053-445-1532

祝 団創設50周年

ベンチャー隊副長

本田 加代

住所 〒433-8118
浜松市中区高丘西 3-12-14
電話 053-438-7720

祝 団創設50周年

ボーイ隊副長

北川 勝美

住所 〒432-8023
浜松市中区鴨江 2-36-18
電話 053-452-3049

祝 団創設50周年

支える会 袴田 香代子

C S 袴田 真央

V S 袴田 真由

祝 団創設50周年

V S 隊副長 袴田 康行

C S 隊副長 袴田 良枝

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 3766-10
電話 053-474-8090

50周年おめでとうございます

祝 団創設50周年

ビーバー隊副長

山根 由賀利

住所 〒432-8021
浜松市中区佐鳴台 1-7-27
電話 053-440-3570

祝 団創設50周年

ビーバー隊副長

齋藤 和美

住所 〒433-8121
浜松市中区萩丘 1-16-14
電話 053-474-5203

祝 団創設50周年

ビーバー隊副長

川上 志津雄

住所 〒432-8041
浜松市中区菅原町 13-17 701
電話 053-451-2850

祝 団創設50周年

ビーバー隊副長

島崎 勝史

住所 〒432-8002
浜松市中区富塚町 3313-9
電話 053-474-7728

祝 団創設50周年

カブ隊副長

小笠原 妙香

住所 〒433-8124
浜松市中区泉 2-19-6 124
電話 053-473-0525

祝 団創設50周年

カブ隊副長

渡邊 香代子

住所 〒433-8119
浜松市中区高丘北 2-28-24
電話 053-439-3573

祝 団創設50周年

カブ隊副長

宮野 学

住所 〒432-8001
浜松市西区西山町 2486-9 1-113
電話 053-485-2186

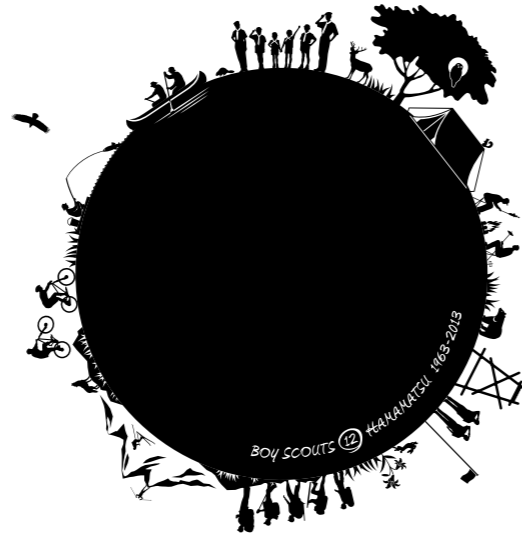
祝 団創設50周年

カブ隊副長

中嶋 一仁

住所 〒432-8018
浜松市中区舘塚 4-12-12 304
電話 053-458-8208

12 団新ロゴマークと 50 周年記念 T シャツデザイン



デザイン： 中嶋 一仁

12 団ができて 50 年。

大自然の中で、たくましくいきいきと楽しそうに活動するスカウトたちの姿はいつもカッコよくて素敵です。

T シャツには、スカウトたちが様々な活動を通じて経験を重ねたくましく成長していく姿を表現してみました。

そして 50 年後の未来に向かってずっと、いつも元気に！！

上記以外で寄付にご協力いただいた皆様です。
(敬称略・いずれも第 49 期)

団・隊指導者

浅井 浩志 池田 恭子 三井 由季子 小松 保晴 望月 博幸

ビーバー隊保護者

加美 由久 山本 明美 平山 信博 大庭 一美 鈴木 由紀
佐野 るみか 秦 なな 松根 陽介 田中 舞 藤村 英樹 横村 利幸

カブ隊保護者

政木 信親 西塚 仁実 梶原 弘隆 山本 準二 桑原 政志
碓氷 栄美 岸 一成 石野 宏明 佐々木 俊哉 関根 聡 大草 幸一

ボーイ隊保護者

棚橋 伸好 榎土 智子 前田 真奈 長屋 弘恵 (根本 龍一)

支える会

浅井 ひとみ 小栗 裕子 市原 利枝子 村松 有子
松本 香代子 仲田 洋子 大高 初子

編集後記

50 周年記念誌を作ろうということになり、実行委員会が立ち上がりました。話し合いの中で今回のデータをきちんと残す必要があるという事になり、データ管理を鈴木邦和さんが一手に引き受けてくださいました。不慣れな私にとっては非常に助かりました。数少ない実行委員の方々にも大いに助けられ本誌が出来上がりました。「未来永劫！」何かにふれ、この記念誌を開いていただけたらうれしいです。尚、寄稿していただいた皆様には深く感謝いたします。
《山田美つ江》

「50 周年記念誌」が完成しました。手に取ってみると、あらためて 50 年という長い歴史の重さを感じました。記念誌のために貴重な資料、写真などをお寄せくださった方々、忙しい中寄稿してくださった方々には、感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。この仕事を引き受けたとき、限られた時間内に作る事ができるだろうかと心配になりました。しかし、実行委員会の皆さんの熱意、そしてご協力のおかげで心配は解消されました。アナログ世代のおじんには、驚くことばかり。いい勉強になりました。50 年の歴史は、次の世代に確実に渡りたいたいです。データ化によって「記憶より記録」が実現しました。本誌をご覧になった感想やご意見を是非お聞かせください。
《松本健一》

記念誌の編集に携わらせて頂くことになり、発刊当初の秘話、昔のスカウトの写真そして現スカウトの「タイムカプセル」の記事など「過去」から「現在」そして「未来」へと記念誌のテーマでもある「未来」に一つの線としてつながった作品に仕上がったと思います。そんな素晴らしい記念誌に携わることができ感謝申し上げます。今、息子達は小6と高1になりますが10年後、20年後・・・心配もありますが成長が楽しみです。50年という歴史は重いかもしれませんが今のスカウト達は活動を楽しんで欲しいです。「笑顔」がとても素晴らしいです。「夢」を是非実現してくださいね。ボーイスカウト 浜松第12団 50 周年おめでとうございませう。
《渡邊香代子》

今回記念誌作成に携わることになり、改めて昔の写真を見てみると、まあ、息子のかわいかったこと！現在高1の彼はビーバー隊から12 団にお世話になりました。10 年を超えてお付き合いになりました。それだけでもすごいなと思っただけなのに、50 年の歴史にはすっぴりと重みを感じます。このような素晴らしい12 団に関われたことを嬉しく思います。これから先も、皆で盛り上げていきたいですね。
《春日浩江》

私が12 団に入団したのは、ちょうど団創立20 周年の年でした。ローパー隊を卒業するまで、リーダーの皆様や同年代の親御様、仲間たちに暖かく見守られていたことが、今の自分を形成しているのだと強く感じます。将来大人になるスカウトたちも同じように感じられるためにも、生々世々スカウト活動のバトンリレーが続くことを願ってやみません。また、今回、12 団への恩返しをチャンスを与えてくださった関係者の皆様には感謝いたします。
《鈴木邦和》

ボーイスカウト浜松第12団 五十年誌

発行日 2013年11月3日

発行者 特定非営利活動法人 日本ボーイスカウト浜松第12団

編集 ボーイスカウト浜松第12団 五十年誌実行委員会

印刷 プリントショップ印刷横丁

本誌の無断転用・転載を固くお断りします。
ご希望の場合は事前にご連絡願います。

